

# マツタケ採れる山に

伊那の  
NPO 富県のアカマツ林で整備



森林整備に取り組むNPO法人「森のライフスタイル研究所」(竹垣英信代表理事所長、本部・伊那市)は10日から2日間の日程で、同市富県のアカマツ林で整備作業を始めた。マツタケが採れるアカマツ林の再生を目指して首都圏を中心に約25人が参加し、堆積した落ち葉をかいたりす

る作業に取り組んだ。関係者によると、アカマツ

林の荒廃は土壌の富栄養化が一因。かつては林内に堆積した落ち葉や枯れ枝は燃料や堆肥として利用されていたが、現在は放置されたままとなり、貧栄養状態を好むアカマツは生育しにくい環境に。養分が少なく比較的乾燥した場

所を好むマツタケも生えにくくなっているという。

このため、同法人はかつてのように人の手を入れることで里山の再生を図る取り組みを推進。今回は「アカマツの森 里山再生プロジェクト」と銘打ち、「コスモ石油エコカード基金」などの助成を受けて今年度から3年間の計画で首都圏などでボランティアを募り、年3回の整備作業に取り組んでいく考えだ。

参加者はマイクロバスで現地に到着すると、樹木医で県まつたけ山管理士の藤原祥雄さんからアカマツ林に関する講義を受けて作業開始。専用熊手を使い、落ち葉をかく作業に取り組む参加者

の熊手を使い、斜面の上の方から下の方へ堆積した落ち葉をかき集めた。落ち葉の下からは土が白くなった場所が現れた。「シロ」と呼ばれるキノコの菌の塊で、分厚い腐葉土が取り除かれて土壌が活性化され、マツタケが生える可能性が高まるという。

作業は秋ごろにもう2回行う予定。竹垣所長は「再びマツタケが採れる山に育てることとで、地域の資産である松林を再生させ、後世に残していきたい」と話していた。

(高木敏雄)



Nagano Nippo

5月11日(日)

発行所 長野日报社

〒392-8611 諏訪市高島3 ☎0266-52-2000(代)

©長野日报社2014